# 豊かな自然とエネルギーに育まれた村

―刈　羽　村―

## 刈羽村はこんなまち

新潟県のほぼ中央、日本海側に位置する刈羽村は、南を柏崎市、北を旧西山町に接し、また長岡市に一部接した飛び地をもっています。

村の西側には砂丘地が広がり、防風林を兼ねた松林と砂丘畑が連なっています。ここからは良質の水がこんこんと湧き、農業用水や浄化して生活用水にも使われています。

中央の平野部は水田が広がり、新潟県有数の米どころとなっています。東の丘陵地は古くからの歴史ある名所旧跡が数多く存在します。

## 刈羽村の歴史

新潟県指定史跡である刈羽貝塚は、数千年前の縄文時代から刈羽の地で人々の営みがあったことを伝えてくれます。ヤマトシジミなど貝の他、刈羽式と名付けられた土器、耳飾りやかんざしなどの装身具が出土しています。

越後は石油発祥の地で、『日本書紀』によれば、越の国から天智天皇に燃える土、燃える水が献上されたと伝えられています。

刈羽村赤田の石油は享保年間（1720年頃）に発見され、明治期に入ると石油の重要性が認識されたこともあり、大正期に村の油田は日本の産油量の４割を占める黄金期を迎えました。

石油産業が衰退した後も、柏崎刈羽原子力発電所の建設・稼働により、古くからエネルギーの村として知られた刈羽村は、今日も新たなエネルギー産業と共に歩みを進めています。

## 観光・特産

### ～ぴあパークとうりんぼ～

人工芝サッカー場、日帰り入浴ができる宿泊交流センターピーチビレッジ、砂丘桃の圃場、ブランドいちご「越後姫」とトマトの生産を行う園芸ハウスなど「農業生産」「加工物販」「飲食」「集客」の4つをコンセプトにした複合施設です。

刈羽ぴあパークサッカー場

宿泊交流センターピーチビレッジ『桃の湯』

### ～至福の時間～

刈羽平野を一望できるテラス席のあるカフェレストラン、地場産の新鮮たまごをたっぷり使った

ロールケーキやガンジー牛のジェラートを販売するスイーツショップ、ベーカリーで構成された飲食店です。

至福の時間

## ～砂丘桃～

刈羽村の砂丘地で作られている特産品の「砂丘桃」。その歴史は古く、江戸時代後期～幕末に現刈羽村下高町生まれの塚田源太夫（つかだげんだゆう）が行商先で、桃の栽培は砂丘地が適することを知り、荒地を開墾して桃畑としたのが始まりです。

刈羽砂丘は降った雨水がすぐに地下に抜け、太陽の熱が砂を温めるため、水分が多く糖度の高い美味しい桃が育ちます。

毎年4月になると桃の花が見頃を迎え、村に春を告げるお祭り『桃の花見フェスティバル』が開催されます。

砂丘桃

砂丘地に広がる桃畑

## ～赤田神社外周彫刻～

赤田神社は、上杉四家老の1人、斎藤下野守朝信の深い信仰のあった神社で、1540年頃は領内の総社とも呼ばれました。慶応年間（1865-68）に造営された社殿にはたいへん手の込んだ彫刻が施されており、拝殿、本殿ともガラス板で保護されています。

赤田神社の彫刻